

令和7年度 学校評価の集計結果

本年度の学校評価の結果がまとまりました。ご報告が遅くなり申し訳ありません。アンケート回収率は下記のとおりです。また、自由記述欄にも多数の方からご意見をいただき、ありがとうございます。全体的には、おおむね達成以上が多くなっていますが、どの面においても課題が残っています。いただいたご意見を参考に、改善を目指し努力してまいりますので、今後とも、本校の教育活動の推進に深いご理解と温かいご支援をくださいますよう、お願いいたします。

なお、この結果は本校ホームページにも掲載していますので、そちらからもご覧になれます。



【回収率】	児 童	97% (5・6年全員)	保護者	52% (全家庭数)
	地域住民	80% (民生児童委員等)	教職員	100%

【評価基準】 A:目標を達成 B:おおむね達成 C:努力を要する

項目	評価指標	評定	学校による考察・改善方策
やさしく	元気のよい挨拶や返事などの習慣や、発達段階に応じた規範意識が身に付いているか。	A	挨拶については個人差が大きいため、挨拶の意義を意識付けし、家庭や地域と協力して指導していきたい。服装や持ち物について「松前小よ子の約束」を基に分かりやすく指導し、廊下歩行やチャイムを守って行動することについても児童の意識が少しずつ高まっており、改善が見られた。
	安全で、安心して生活できる居場所づくりができていますか。	A	9割以上の児童と保護者が肯定的に捉えているが、「あまりあてはまらない」と回答した児童が1クラスに1～2人いる。これからも、学級担任が一人一人の児童としっかりと向き合い、児童や保護者と信頼関係を築けるよう努めていきたい。
	互いのよさを認め合う仲間づくり、いじめを生まない、負けない集団づくりができていますか。	A	全体的には高評価ではあるが、児童と教職員の評価が若干下降している。ジブンミカタプログラムにより自己理解・他者理解を進め、人とのよりよい関係を築く力を育てる取組を始めたので、学級担任が支援しながらいじめを生まない集団づくりに努めていきたい。
	保幼小中連携教育を重視し、推進することができたか。	B	児童の評価が下がっているが、生活科や総合的な学習の時間、中学校への授業参観、未就学児の体験入学など、例年どおり充実した交流を行うことができた。まさき幼稚園との合同避難訓練も再開した。キャリアパスポートを活用し、自己理解と自己実現をする力について考えさせていきたい。
まじめに	生活科、総合的な学習の時間の充実を図り、地域に学ぶ教育を推進することができたか。	B	今年度は昨年度まで行っていた5年生と年長園児との交流が行えなかったため、児童の評価が下がっている。しかし、低中学年では地域に学ぶ学習を行うことができた。今後、高学年でも地域に出向いたり地域人材を生かしたりする学習を積極的に推し進めていきたい。
	基礎的・基本的な学習内容の定着と読書習慣の定着が図られているか。	B	児童の評価は下がっているが、6年生の学力調査では平均正答率が3教科すべてにおいて県平均を上回った。朝学習の時間には、タブレット学習で基礎・基本の定着を図ったり漢字・計算テストを行ったりした。読書活動を推進するため、タブレットのみきやん通帳の活用をさらに進めていきたい。
	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に努めることができたか。	B	学が意欲を高める導入の工夫や児童同士の対話による活動、関心を高める学習環境の整備などの授業改善を全教職員の共通理解の下で進め、研究授業も多く行ってきた。しかし、児童の評価は下がっている。今後も、学習が苦手の児童も「分かった」「できた」と感じる授業を実践していきたい。
	本気で聞く力と、読解力を伸ばすことができていますか。	C	保護者の評価は昨年並みだが、児童と教職員の評価が下がっている。タブレットを使ったEILSの読解力検定の活用を進め、文章や資料から意図や情報を適切に読み取る力を伸ばしていきたい。また、日頃から人の話を最後までしっかりと聞く習慣を身に付けさせていきたい。
たくましく	いじめ・不登校の未然防止と早期対応に努めているか。	B	困ったことや悩みを相談できる人がいないと答えている児童もいる。学級担任や養護教諭、相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が児童や保護者に寄り添って支える姿勢を示し、児童が安心して学校生活を送れるように努めていきたい。
	自己管理能力を高め、命を大切にする指導が図られているか。	A	全体的に肯定的な評価の割合が高い。保護者、地域のご協力により多くの児童が安全な生活を送ることができている。しかし、登下校の仕方や運動場・公園での遊び方については課題も見られたため、全校放送や集団下校・学年下校の機会に、指導を繰り返している。
	避難訓練や防災訓練などを適切に実施して、安全対応能力を育てることができたか。	A	津波避難と不審者避難は、事前指導をした後、実施日時を児童に知らせずに訓練を行った。実際の災害のように突然避難行動をとることで、安全対応能力の向上を図ることができた。来年度は、反省を生かして関係諸機関を交えた質の高い避難訓練を計画していきたい。
	心身ともに健康な生活習慣が身に付いているか。	B	早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が身に付いていない家庭もあり、児童の評価が下がっている。委員会活動やお昼の校内放送などを通して児童への啓発を続けている。今後も、保健主事、養護教諭、栄養教諭を核として、家庭へ啓発し協力して取り組んでいきたい。
	目標設定による体力づくりの推進に努めることができたか。	C	特に児童の評価が低くなっている。春からは外遊びの有効性を指導しつつ、意図的に屋外で群れ遊びをする機会を増やしているが、寒くなってくると高学年の女子が屋内で過ごすことが増えている。委員会による外遊びの奨励などによって体力の向上を図りたい。
	挑戦・努力し続ける粘り強い心の育成に努めることができたか。	B	教職員や児童の評価が下がっている。学校行事や日常の学習活動、運動などの場面において、目標を持って挑戦・努力し続ける粘り強い心の育成に努めているが、児童や保護者にしてみると十分ではない児童もいる。目標に向かって頑張る児童を称揚していきたい。
保護者連・携地域	家庭や地域との連携を密にした地域ぐるみの見守り活動ができていますか。	A	登下校時における保護者や地域の皆様、関係諸機関の皆様による見守り活動により、児童は安全に登下校をすることができている。しかし、登下校中のトラブルも散見されるので、今後も継続して皆様と協力関係を強化し、指導を行っていききたい。
	学校や教育活動に関する情報提供を積極的に行い、家庭や地域と連携した教育活動を推進しているか。	A	ホームページや学校・学年便り、適切なメール配信などの活用により、学校の様子や必要な情報を発信することができた。今後も、更に見やすく分かりやすい情報発信を心掛け、しっかりと連携の下で教育活動を推進していきたい。